



2020年7月15日

高野 文夫 NPO日本プレゼンテーション協会理事長

# 1、リモートワークが示唆する未来の新しい働き方

「リモートワーク」とは、「在宅勤務を含む、会社以外の場所で勤務すること」です。オフィスには出社せず、自宅やカフェ、レンタルオフィスなど、会社とは違う場所で働くワーキングスタイルのことを指します。

これまで、在宅勤務をはじめとして「テレワーク」という言葉が使われることが多かったが、「テレワーク」と「リモートワーク」には、本質的な意味の違いがあります。

テレワークは、「会社」という日常的に人々が集まる場所があることが前提で、そこから離れた場所（テレ）で勤務（ワーク）することです。リモートワークは、会社、自宅、第三の場所を自由に柔軟に移動・選択（リモート）し、働くこと（ワーク）です。

現在、感染症への対応としては、「テレワーク」としての在宅勤務へのシフトが主だが、今後は、真の意味での「リモートワーク」が主流となると考えています。

それは、テレワークという言葉には、致し方なく会社以外の場所で仕事をするというニュアンスがあり、「一時的なもの」という意味合いがあるからです。

しかし、我々はもう、過去のあの状態に完全に戻ることはできないのです。新しい未来の、新しい世界の、新しい働き方を早急に作り上げる必要があります。

これからは、どこでもオンラインでつながり、バーチャルに運営されるチームで円滑に業務を回し、リモートで働いて成果をあげる、ということを当然とする認識が必要となってくるでしょう。本当の働き方改革も、この認識から始まると言えましょう。



## 2、リモートワークに向く仕事

もちろんすべての仕事のリモートワークでできるわけではない。リモートワークに向かない仕事ももちろんあります。リモートワークに向く仕事とは、基本的には（オンラインにつながった）パソコンでできる仕事です。

ここで、「自分の仕事はパソコンではできないからリモートワークは無理だ」と端から諦めるのは早計だと思います。ITの進展によって、これまでではできないと思っていたかなりのことがパソコンでできるようになっています。

だからこの機会に、自分たちの仕事のどこまでがパソコンでできるのかということ一度考えてみるとよいでしょう。

例えば、集合研修はパソコン上ではできないと思っていたのではないだろうか。しかし、ここ数年はITの進化もあいまって「リアルに集合しない」研修の開発が進み、オンラインでの研修の提供が増えつつあるのです。

パソコンではできない仕事というのは、言い換えれば、物理的にその場に行かないとできない仕事です。逆に言えば、移動することやそこにいることが「本質的な価値」を生み出しているかどうかです。

本当にリモートではできないのかを問うことは、あらゆる仕事の本質を考える絶好のチャンスのはずです。

### 3、顔を合わせなければ、という 先入観を捨てる

日本ではまだ「顔を合わせないと仕事が進まない」と考える人が少なくない。それがこれまでリモートワークの普及を阻んだ理由のひとつである。直接会わずに仕事を進めるための「バーチャル・コミュニケーション・スキル」の必要性を認識している人も多くはなかったのです。

しかし、にわかに訪れたリモートワーク時代においては、顔を合わさずに仕事を進めるスキルを身につけているかどうか、生産性や成果を大きく左右する。

まず我々は、「顔を合わせないと仕事が進まない」「面と向かって直接話さないとうまくいかない」という先入観を捨てる必要があります。

うまくいかないどころか、かつてMITの調査(T. J. Allen, Managing the Flow of Technology, The MIT Press)では、関係構築がきちんと行われ、効率的に運営されたバーチャル・チームは、顔を突き合わせたリアル・チームより高い成果をあげることができたという結果を紹介したものであります。

**それでは、2020年8月15日号にてお会いしましょう。**